

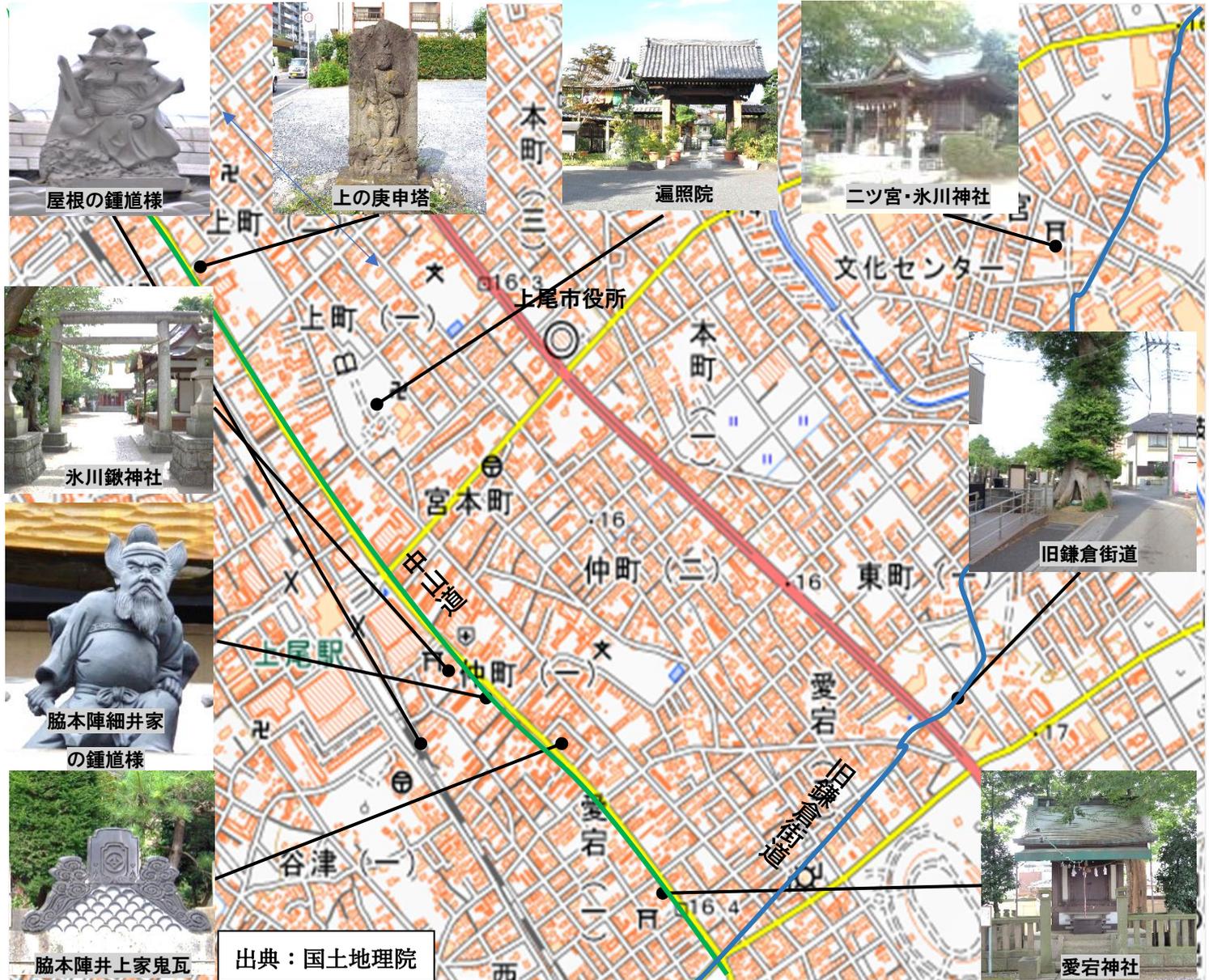
上尾歴史散歩

(中山道・旧鎌倉街道コース)



江戸・明治の面影を訪ねて

上尾宿は中山道の江戸から五番目の宿場として栄えました。幕末から明治初期に3度の大火に見舞われ、当時の面影はほとんどなくなりましたが、あちらこちらに江戸・明治時代に上尾に住んだ人々の心意気が隠れています。江戸・明治時代の上尾の面影を訪ねてみませんか。



中山道・旧鎌倉街道コース

徒歩約 5.5Km、所要時間約 4 時間(説明含む)

中山道のみ約 3Km 所要時間3時間(説明含む)

上尾駅⇒鍾馗様⇒氷川鉞神社⇒本陣・脇本陣跡⇒愛宕神社⇒(旧鎌倉街道⇒ニツ宮氷川神社)⇒遍照院⇒上の庚申塔⇒上尾駅 ()内は旧鎌倉街道コース

問い合わせ先:あげおアッピーガイドの会(ガイド料は無料です)

〒362-0042 埼玉県上尾市谷津 2-1-50 上尾フラガ 22
上尾市観光協会内

TEL: 048-775-5917 FAX: 048-775-5024

Eメール: info@ageo-kankou.com

<http://appie.html.xdomain.jp/>



中山道・旧鎌倉街道コース

上尾宿：中山道六十九次で、日本橋から5番目の宿場。天保14年（1843年）の町並みは10町10間（約1.1km）。宿内人口793人（男372人、女421人）。宿内家数182軒（本陣1軒、脇本陣3軒、問屋場1軒、高札場1軒、旅籠41軒）本陣は塩尻宿に次いで2番目の規模。上尾宿は江戸を出立してからおよそ9里（35.3Km）の地点にあり、旅人が1日で歩く距離に最も近似（半時（約1時間）歩いた距離を1里）で、日本橋を七つ立ち（早朝4時）していれば、上尾宿で最初の宿を探すため、周辺の宿場より旅籠が多かった。

- **屋根の上の鍾馗様**：鍾馗様は唐(中国)の六代皇帝玄宗の夢に現れ妖魔を祓い除いたという伝説上の人物です。端午の節句に鍾馗の人形・幟を飾るのは子供が一切の病魔を免れ丈夫に育つようにとの願いからです。上尾宿は幕末から明治初期に三度の大火があり、屋根の上に鍾馗様を飾ると、火の粉を祓い、その禍を逃れると言われていました。また、畿内では、向かいの家の鬼瓦に対抗して、鍾馗様を飾ったという説があります。
- **氷川鍬神社**：上尾宿の総鎮守として広く世人の尊崇を集めた古社であり、長く、御鍬太神宮(オウダイジングウ)と呼ばれてきましたが、明治41年（1908年）上尾村総鎮守の氷川神社から女体社を合祀し、現社名となる。境内には「上尾郷二賢堂(ジケンドウ)碑記」があります。二賢堂は江戸時代の学僧雲室上人と地元の山崎武平治碩茂ら上尾宿や近郊の人々により運営された郷学（聚正義塾）で、当時の上尾は向学意識の高い土地柄でした。
- **脇本陣細井家の鍾馗様**：現在呉服店の中二階に飾られている鍾馗様は「明治35年脇本陣細井家より建物を譲り受けた時に使用されていた鍾馗様で、建て替えた時、現在の場所に設置されました。
- **愛宕神社**：当神社はその昔、現在の上尾運動公園北口近くにありましたが、下町に移転し、明治の神仏分離令がありその後も神社の分離・廃合・合祀が行われ、愛宕神社も他と合祀されることになり、町名も下町から愛宕町と改名。社は、上尾村の氷川神社から女体社を譲り受け、ご神体は勝軍地蔵で、火伏・諸病厄除などのご利益があります。境内には「猿田彦大神」として庚申塔が祀られております。
- **鎌倉街道羽根倉道**：古道としての鎌倉街道は、鎌倉時代に幕府のある鎌倉と各地を結んだ道路網で、鎌倉幕府の御家人が有事の際に「いざ鎌倉」と鎌倉殿の元に馳せ参じた道です。上尾市を通る鎌倉街道羽根倉道は信濃・越後に向かう上道と奥州に向かう中道を結ぶ要路でした。
- **二ツ宮の氷川神社**：二ツ宮氷川神社は江戸時代には上尾村・上尾宿・上尾下村を含めた3か村の総鎮守で氷川男体社と氷川女体社の2つの神社から成り立っていました（地名の由来）。御祭神の主神は素盞鳴尊(スサノミコト)です。本殿は二間社流れ造りで江戸時代末期の建立と言われていています。本殿の側壁には中国の故事に因む見事な彫刻で市指定文化財です。
- **遍照院**：遍照院は、阿順法印（応永9年1402年没）が応永元年（1394）に開山。室町時代の古刹で、江戸時代には寺領20石の朱印地を与えられました。遍照院が談林所として弟子の養成を公認されたのは正徳三年（1713）以降で、常設談林所に昇格し本堂が狭くなったため第二十世賢典僧正は本堂を再建した。江戸時代中期には談林所に昇格した。ご本尊は大聖不動明王、諸願成就し災害を除くと厚く信仰されています。境内には二賢堂を設立した山崎武平治碩茂の墓、孝女お玉の墓、三世式守伊助の墓、墓相学の松崎整道居士の墓等があります。
- **上の庚申塔**：庚申塔は村のはずれに建てられ、邪気や悪霊を防ぐ役目もありました上尾宿は上・中・下宿に分けられ、上宿の庚申塔の場所は上尾宿の家並の最北端であったと思われます。延享2年（1745）建立、側面に「上尾上町講中」と刻まれています。